

13. 産婦人科 ジュニア・レジデントプログラム

1. 指導責任者：佐川典正（総合女性医学健康センター 所長）
伊藤美幸（産婦人科 婦人科部長）

2. 期間：4週間、(必須) (2年目選択)

3. 目標

【一般目標 GIO】

産科婦人科の患者の特性、疾患の特性を理解し、暖かい心を持ってその診療にあたる態度を身につける。あらゆる年代の女性のすべての健康問題に関心を持ち、管理できる能力を身につける。

【個別目標 SBO's】

- a. 産婦人科診療に必要な基本的態度・技能（10例を経験する）
 - 1) 外陰部の診察、腔鏡診、内診（膣の触診と双手診）、膣直腸診ができる。
 - 2) 基本的検査（経膣・経腹超音波検査、CT、MRI）を活用し骨盤内の評価ができる。
 - 3) 子宮頸部細胞診を実施できる。
 - 4) 患者の羞恥心に配慮した慎重な態度がとれる。
- b. 下腹部痛、急性腹痛の鑑別診断と初期診療（5例以上）
 - 1) 切迫流産、切迫早産などの産科救急疾患を診断し、治療できる。
 - 2) 卵巣嚢腫捻転、骨盤腹膜炎などの婦人科救急疾患を診断し、治療できる。
- c. 女性特有のプライマリケアー（5例以上）
 - 1) 性器炎症（外陰炎、膣炎、骨盤内感染）を診断し、治療できる。
 - 2) 性行為感染症（STD）として、クラミジア感染症、性器ヘルペス、尖圭コンジローマを診断できる。
 - 3) 加齢と性周期に伴うホルモン環境の変化を理解し、月経異常、更年期障害を診断できる。
 - 4) 月経異常の治療、ホルモン補充療法、低用量ピル療法を説明できる。
- d. 妊産褥婦ならびに新生児の医療（5例以上）
 - 1) 妊婦健診において、エコーによる胎児推定体重、胎盤位置、羊水量などを評価でき、正常妊娠の診断と経過観察ができる。
 - 2) 胎児心拍モニタリング（NST）を行い、評価できる。
 - 3) 妊婦、褥婦に対する投薬の問題、治療や検査する上での制限を述べることができる。
 - 4) 夜間であっても分娩に立会い、積極的に母児の状態、分娩介助、胎盤の娩出处置を見学する。
 - 5) 基本的な周産期管理が行える。
- e. 婦人科良性腫瘍の診断。（4,5例）
 - 1) 超音波検査を行い、子宮、卵巣を描出でき、子宮筋腫、卵巣嚢腫などを診断できる。
 - 2) 子宮頸部細胞診クラス分類およびベセスダ分類を評価でき、患者の定期検診指導ができる。

f. 産科・婦人科手術(4,5 例)

- 1) 帝王切開術の適応と手術手技を述べることができる。
- 2) 婦人科手術(子宮全摘出術、卵巣腫瘍摘出術など)の概略を述べることができる。
- 3) 基本的な術後管理が行える。
- 4) 子宮に流入する血管系を述べることができる。

g. 子宮内掻爬術(4,5 例)

- 1) 流産の原因、流産率、流産手術の適応と合併症につき述べることができる。
- 2) 次回妊娠に向けての保健指導が行える。
- 3) 人工妊娠中絶術の適応と合併症を述べることができる。
- 4) 中絶理由を聴取し、術後の避妊を含めた保健指導が行える。

4. 方略 LS

LS1 (OJT)

- 1) 週 4 回外来に参加する。
- 2) 子宮癌検診、腔鏡診、内診、超音波検査を経験する。
- 3) 病棟において、入院患者を受け持ち、分娩、帝王切開術、婦人科手術、子宮内掻爬術に立会う。
- 4) 分娩、婦人科救急疾患では、夜間、休日の産婦人科救急患者の診察と治療に積極的に参加する。

週間スケジュール表

	月	火	水	木	金	土
午前	外来 2 診	外来 2 診	外来 2 診	外来 2 診	外来 2 診	休診
午後	手術	病棟回診 カンファレンス	手術 カンファレンス	病棟回診	手術	病棟回診

LS2(勉強会・カンファレンス)

カンファレンスでは、受け持ち患者につき症例提示する。特に、術前患者のリスク評価、外来者の中で注目すべき事項を説明する。

カンファレンスに続いて、最近の問題症例に関する原著論文を読み、それを解説する。

5. 評価 EV

通常は外来、病棟回診、手術、分娩に際して、指導医により形成的評価が行われるが、チームスタッフの評価も反映される。ローテーション終了時に自己評価および指導医による評価が行われ EPOC に記録される。

6. その他

産婦人科の実際の診察手技が痛みを伴い、羞恥心を助長する可能性があるので、指導が難しいことがある。内診に限らず、外来ではあらゆる場面でクレームにつながり得るが、プライバシーを守り、患者さんの尊厳を損なうことがないように配慮して研修して下さい。